

2 ハカマロール給与等に関する調査結果

1 課題を取り上げた理由及び調査の目的

生産牛においては飼料自給率の向上，さとうきびにおいては株出し栽培における管理作業の省力化が課題となっている中，さとうきび収穫後，ほ場に残っているハカマを肉用牛農家が所有する飼料作物用機械で集草・ロール梱包・ラッピングする技術を実証・波及し，その製造物（以下，「ハカマロール」）を飼料として利用できれば，肉用牛農家は飼料コスト低減を図れる。また，さとうきび農家にとっても，株元からのハカマ除去作業が省略でき，管理作業が速やかに開始できることで，さとうきびの生育促進による増収が期待される。そこで，今年度は，ハカマロールの嗜好性と肉用牛農家の需要調査を行った。

2 調査の概要

(1) 嗜好性調査

- ①調査農家：肉用繁殖雌牛飼養頭数約10頭～100頭の農家10戸
- ②給与方法等：R4年3月に回収したハカマロール(ラッピングなし)1個を配付し給与，給与量は10kg程度/頭（多頭では1日のみ，少頭で4～10日間）
- ③調査方法：聞き取り

(2) 需要調査

- ①調査農家：R4年10月に回収・ラッピングしたハカマロールをサイレージ化した後，12月の子牛セリ市で展示し，それを見た肉用牛35戸
- ②調査方法：聞き取り

3 調査結果

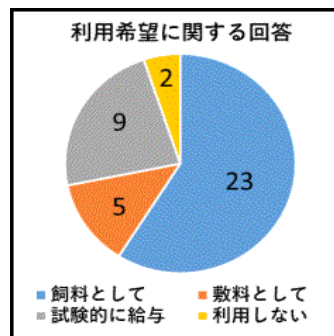
(1) 嗜好性調査

項目 農家番号	飼養頭数 母牛(育成 込)	給与方法 メニュー	給与量/頭・ 日	嗜好性	品質 (土, 水分 等)	使いやすさ	メリット	デメリット	購入価格 (円/個) 90cm×100cm 300kg前後	※ロールハカマの状態：きび収穫の翌日に梱包，雨にはあっておらず，ラップはしていない。以下はその他特記
考察・要約	今回は9～100頭のさまざまな規模の飼養農家にロール1個を提供した給与試験結果。	かねてのロール・ラップ等と替えて給与。	かねてのロール・ラップ等と同程度か少ない量3～10kg程度，多頭では1日のみ，少頭で4～10日間。	土以外の食べ残しはほとんどなく，嗜好性は高い。	今回は雨に濡れていない，収穫翌日の梱包品で，水分等良好。時期や給与期間にもカビの発生はなし。	カットされいており，運びやすい，土は気にならない。	草不足の冬場，助かる，ラップすれば使いやすい(水分調整が必要)。	手間としては飼槽の掃除(土等)程度。日持ちが1週間程度。雨に濡れたものだと品質が落ちる懸念あり。	平均で3～4000円程度なら買う人多い(ラップした状態で)，採算が合う価格が見合うか検討必要。	継続して給与したときの嗜好性(日持ち，牛の栄養度(成分値)が気になる。その場合，濃飼量の増が必要。 ほ場に捨ててある認識なので買おうと抵抗があるかも，濡れた品質に差があれば価格設定が難しいと思われる。

(2) 需要調査等



セリ市での展示とアンケート調査



採食の状況

4 考察

(1) 嗜好性調査

牛の嗜好性は良く，土の混入や食べ残しはなかった。利用したい農家が多かった。

(2) 需要調査

発酵しており，匂いが良く，土の混入もなく，飼料として利用すると回答した方が約60%，試験的に使いたい方23%であり，飼料利用に前向きな方が83%と評価は高かった。

5 残された課題

回収後のさとうきびの生育調査，回収機械所有者調査，しくみづくり（糖畜連携）

6 実施者 福元 和宏（畜産部会，肉振協大島支部と連携）